

# 学 園 報

No.45

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/>富山国際大学付属高等学校 URL <http://www.tuins-h.ed.jp/>富山国際大学 URL <https://www.tuins.ac.jp/>富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/info/midorino/>富山短期大学 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/>社会福祉法人富山国際学園福祉会にながわ保育園 URL <http://www.tkfukushikai.or.jp/ninagawa/>

## ●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444

TEL/076-436-5139

FAX/076-436-5444

## 「自然」とは？



理事長

金岡 克己

令和元年秋、台風15号、19号が相次いで関東に上陸し、強い風や大量の雨により、広範な被害をもたらしました。被災の皆さまには誠にお気の毒ですが、印象に残るのは、報道で繰り返された「過去に記憶がない」という住民の言葉です。人間にとり、実体験のない遠い過去の出来事、ハザードマップを意識することがいかに難しいかが分かります。

この傾向は、「自然」という用語の使い方にも表れています。自然環境、自然エネルギー、自然食品など、あたかも「自然」が人間によいものという意味で扱われていることに、強い違和感を覚えます。

事実を検証してみましょう。これまで、生命の生存に適した惑星は、地球以外に発見されていません。惑星の観測が難しいことは事実です。それでも、水星、金星、土星など、他の太陽系惑星を考えれば、宇宙空間がいかに生存に厳しいかお分かりでしょう。例えば、地球に磁場がなく、ヴァン・アレン帯が形成されなければどうなっていたか。降り注ぐ太陽風や宇宙放射線のもと、高等生命の誕生はなかったかも知れません。

続いて、地球の大気圏内を眺めます。地震、津波、台風、集中豪雨、火山の噴火、何か私たちに制御可能な自然現象があるでしょうか。自然とは、決して人間にやさしいものではなく、むしろ不安定で苛酷なものといえます。これを避けるため、都市を作り、ダムを造り、河川を整え、農地を切り開いてきました。人類は、長い時間をかけ、自然を観察し、その猛威を和らげる方法、技術を身に付け、生存領域を拡大してき

ました。

富山にも自然と対峙してきた歴史遺産があります。国の重要文化財、常願寺川上流の砂防ダム群です。1858年の飛越地震において、立山の麓、立山カルデラが大量の土砂で埋まりました。一説には2億m<sup>3</sup>、富山平野が厚さ1mの泥で覆われる量が残っています。この流出を防ぐため、国の直轄事業として、100年を超す砂防工事が続けられています。

ところが、自然＝人間にやさしいという誤った認識が増えています。雨、風をしのぐ快適な空間に住み、自然の脅威と離れた生活を送るうち、意識の逆転が起きたといえるでしょう。ヨーロッパには、人間は神が創り給うたもの、自然は克服し、人間の僕としてよとのバックボーンがあると聞いたことがあります。ヨーロッパ諸国の低い森林率、排出権取引の考え方など、人間を上位に置き、あるがままの自然を軽視する発想といえるかも知れません。

自然は不安定で厳しいものです。これと向き合い、共生し、私たちの生活空間を維持していくためには、人類の叡智、築き上げてきた技術、蓄積された社会インフラをさらに磨いていく必要があるでしょう。

人間は自然の一部です。と同時に、自然と比べ小さな存在です。安易な「自然」の礼賛は、むしろ、人間の万能感に基づく傲慢さの現れではないかと思えてなりません。

### CONTENTS

- |  |   |
|--|---|
| □「自然」とは？ 理事長 金岡 克己 …………… 1                                     | □トピックス 大学コンソーシアム富山共同授業科目「とやまの食文化」を新規に開講 …………… 5 |
| □特集1 富山国際大学 新学長就任の挨拶 …………… 2                                   | □令和元年度部門別学生・生徒・園児数等 …………… 5                     |
| □特集2 メディア・テクノロジー部、第10回データビジネス創造コンテストで最優秀賞と高校生部門賞をダブル受賞 …………… 3 | □平成30年度決算及び財務の状況 …………… 6～7                      |
| □特集3 富山短期大学付属みどり野幼稚園 認定こども園としてのスタート …………… 4                    | □学園NEWS …………… 8                                 |

# 富山国際大学 新学長就任の挨拶

富山国際大学 学長 高木 利久

中島恭一先生の後任として、本年7月1日より富山国際大学の学長に就任しました。どうかよろしくお願いたします。

まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。私は富山県射水市（旧小杉町）に生まれ、18歳で高校を卒業するまでの間この富山の地で育ちました。大学進学以降は故郷を離れて暮らしておりましたが、この度ご縁があり、富山国際大学にお世話になることになりました。

私は、大学卒業後、40年以上の間、ずっと大学という世界で働いてきました。専門は、IT（情報技術）、AI（人工知能）ですが、ここ25年ほどはITやAIそのものを研究するというより、それらを生命科学（生物学、医学、薬学、農学など）に応用するという取り組みにできました。より具体的には、生命研究から出てくる遺伝子情報などのペタ（ $10^{15}$ =千兆）スケールの大量データと3,000万件に及ぶ文献とから新たな知識や仮説を見つけるための研究をしてきました。その中でもとくに、知識発見に必要なデータベースを作ることに専念してきました。

大量かつ多様なデータを集め、それを繋いでビッグデータ化し、AIなどで解析する動きは多くの科学や産業の分野で急速に広まりつつあります。我が国の政府はsociety5.0と呼ぶ「あらゆるものやデータが繋がった世界」の実現を国を挙げて推進しようとしていますが、私はまさにその基盤となるような研究を行ってきました。具体的には、私は十数年前より我が国の生命科学全般のデータベースを取りまとめる仕事をしてきており、現在もその仕事（ナショナルバイオサイエンスデータベースセンター長）を続けております。

さて、いまお伝えしたように、私は人生の大半を大学というところで過ごしてきましたので、大学のことはよくわかっているとも言えますが、一方で、富山国際大学は私がこれまで関わってきた大学や組織とはいろいろな面で大きく異なりますので、これまでの経験が通用するとは考えておりません。謙虚な気持ちで大学の運営に取り組みたいと思っております。

その一方で、教育という観点からは、大学の果たすべき役割は大学によってそう違わないとも思っており

ます。それは一言で言えば、自分の頭で深く考え判断できる力、自立して社会を生きる力を養うことだと思います。これは富山国際学園の建学の精神である「高い知性と広い教養、健全にして豊かな個性」を備えた人材の育成そのものに他なりません。



これらの知性、教養、個性に加え、幾つもの要因が複雑に絡み合い、ネットワーク化した現代社会を生き抜くには、しっかりとした訓練をとおして得られるスキルの習得も欠かせません。どんな分野の仕事をするにせよ、どこで働くにせよ、グローバル化への対応力（文化や習慣などが異なる国内外の様々な人々とコミュニケーションや協働ができる）とITによる問題解決力（多様で膨大なデータを集め、分析することができる）の2つの能力を身につけることが欠かせません。前者のグローバル教育に関しましては、富山国際大学の基本理念である「共存、共生の精神」を磨くということで従来から積極的に取り組んでおりましたが、後者のIT教育に関しましては、必ずしも十分とは言えませんでした。そこで、2019年度よりIT教育のできる教員の増強やカリキュラムの見直しを図り、また、情報教育研究センターを新たに設置して、IT教育の充実・強化、IT環境の整備を進めております。グローバル化イコール英語を学ぶことだけではないように、IT化イコールプログラミングではありません。その基礎となる数理的なものの考え方を身につけることをめざします。この点に関しては、私のこれまでの経験や知識が生かせるものと自負しております。

富山国際大学も来年で開学から30周年を迎えます。これまでの諸先輩方の努力に思いを馳せながら、教職員、学生の皆さんと一緒に、これまで以上に魅力ある、活力ある大学を作り上げていきたいと考えております。ご指導ご支援のほど、どうかよろしくお願申し上げます。

# メディア・テクノロジー部、第10回データビジネス創造コンテストで最優秀賞と高校生部門賞をダブル受賞

富山国際大学付属高等学校 メディア・テクノロジー部 顧問 橋本 知彦

富山国際大学付属高等学校 メディア・テクノロジー部は令和元年9月7日（土）、第10回データビジネス創造コンテスト（慶應義塾大学 SFC 研究所 データビジネス創造・ラボ 主催）の本選発表会に出場し、最優秀賞と高校生部門賞をダブル受賞しました。2位は東海大学、3位は慶應義塾大学・東京都市大学、4位は筑波大学大学院、5位は名古屋市立大学大学院でした。

メディア・テクノロジー部はこれまでに2回出場し、全て最優秀賞を受賞しています。今回のテーマは「未来のメディア」で、株式会社 電通から提供された関東地方のテレビ視聴データ、株式会社 radiko のインターネット・ラジオの聴取データなどの課題データを分析しました。自分たちで用意したデータを合わせると 100GB に達するビッグデータの分析になりました。

コンテストでは、課題データや独自調査データを分析するだけでなく、問題を自分たちで定義し、解決案を提案しなければなりません。問題設定では、「21世紀に最も大きな価値を持つものは、幸福である」と考え、幸福を象徴する笑顔を増やすメディアこそ、未来のメディアであると定義づけました。心理学の研究をスタートし、クーリーの「鏡にうつった自我」やミードの「Me と I の自我論」などから、自分をモニターする「鏡としての他者」が必要であること、幸福の感情は他者に伝播する「表情フィードバック仮説」などを学びました。ところで、幸福の象徴である笑顔に最も影響を与える要因は、天気でした（校内調査）。晴れの日には、「良い気分」が合計 87.13% なのに対して、雨の日では「良くない気分」が 71.34% まで上昇していました。その天気の移り変わりを報道する天気予報のメディア接触を分析すると、インターネット優勢の時代においても、高校生の 47.37% がテレビで天気予報をみており、情報の信頼度も高い傾向にありました（校内調査）。次に天気予報がどのように報じ



研究発表した部員（2年生2名、1年生2名）

られ、どのような番組構成なのか、課題データによる視聴傾向、会話分析ソフト ELAN を使った映像・音声分析などをおし、天気予報の形式がパターン化していること、より関心をもってもらえる番組構成が必要なこと、視聴率が高い天気予報は気象予報士が人気を博していることなどを明らかにしました。

これらの分析をもとに、自分の感情をモニタリングし、笑顔を回復させる Smart Hand Mirror を製作しました。エクマンの感情分類に基づき、人工知能 Tensor Flow を使って、いまどんな感情なのかを分類し、笑顔指数を返します。実証実験では、Smart Hand Mirror 使用後に happy が 63.0%（平均値）も上昇しました。この鏡があれば、無意識に落ち込んだ気分を回復させ、自分が笑顔になることで周囲の笑顔も促進できます。

コンテスト後、一般社団法人データサイエンティスト協会が主催する「一般社団法人データサイエンティスト協会 6th シンポジウム ～実務者が集うデータサイエンスの最前線～」に招待され、全国で活躍する本職のデータサイエンティストを前に、自分たちの研究を発表しました。

# 富山短期大学附属みどり野幼稚園 認定こども園としてのスタート

富山短期大学附属みどり野幼稚園 園長 石動 瑞代

本年度4月から、附属みどり野幼稚園は幼稚園型認定こども園となりました。これまでの幼稚園機能を軸に、保育を必要とするお子さんを預かる保育機能を付加し、保護者の保育ニーズに応じています。また、未就園児親子サークルの回数を増やし、地域の子育て支援の充実を図っています。

## 「にじの時間」の誕生

みどり野幼稚園には、従来どおり幼稚園の時間帯で教育を受ける1号の子どもと、7時30分から18時30分までの保育時間帯を利用する2号の子どもがいます。幼稚園の降園時間後には、2号の子どもたちと預かり保育の申請があった1号の子どもたちが一緒に子育て支援室に集まって保育を受けています。いつもの2号のメンバーに、毎日変化する1号預かり保育の子どもたちが加わるのですが、それなりにグループが形成され、保育が展開されています。一方で、保育者は「2号さん、預かりさん」と呼び名が定まりません。そこで、教育時間以外の保育を明確なものにしようと「にじ」という名前を付けました。にじグループさん、「にじの時間」の誕生です。

## 異年齢交流による育ち

幼稚園では、学年別のクラスを中心に生活していますが、にじの時間では、異年齢の子供たちが一緒に過ごします。近い空間で、異年齢の子どもと生活する時間が増えることで、子どもたちにも変化が生まれました。



いつもと違う仲間でおやつをとります。

特に、年中クラスの子どもたちは、年長の子どもの遊びや会話に興味津々。同じブロック遊びやままごとをしながらも、隣で遊ぶ年長児のアイデアをじっと見つめ、楽しく展開するやりとりに耳をそばだてる様子がうかがえます。少し遠くから遊びを眺め、少しずつ接近してくる子もいます。そんな姿に気づいたのか、

年長の子どもは、年中や年少児を誘い、お兄さんお姉さんらしく遊びます。きょうだいとは違う、お兄さんお姉さんや弟・妹としての関係は、遊びの展開や豊かな言葉の刺激となったり、相手の立場を考えて行動する思いやりの気持ちを育んだりしています。最近では、クラス別の教育時間でも、にじグループの子どもを、互いに仲間として気遣う姿が見られています。

## 生活リズムへの配慮と保育の充実

幼稚園と大きく異なる点は、園での生活時間が長いことと、長期休暇を含め平日の休みがほとんどないことです。午後に眠くなる子どもには、午睡がとれるように環境を工夫しています。特に夏季休暇中の保育では、にじグループ全員で午睡をとって体調管理を行いました。



暑い夏には、午睡で休養をとります。

また、にじグループだけでゆったりと園庭で遊ぶ時間を保障するため、降園後の園庭開放日の調整を行っています。2学期からは、にじの時間に大学・短期大学の学生や高校生との交流機会を持ち、多様な体験を提供することを計画しています。

## 子育てサポートの文化を！

3才未満の未就園児を対象とした親子サークルは、年間30回の開催。子育て支援室や園庭を使って自由に遊ぶ時間や大学・短期大学の教員にも協力をいただいで、楽しい親子活動を提供しています。また、保護者やOBの方にも専門性を発揮していただく機会を設け、富山国際学園 & “みどり野ファミリー”で子育てをサポートしていく文化を育んでいます。

新しいシステムへの対応、事務量の増加など大変な面もありますが、認定こども園として、今まで以上に健やかな子育て・親育ちを支えていきたいと思ひます。

# 大学コンソーシアム富山共同授業科目 「とやまの食文化」を新規に開講

富山短期大学 食物栄養学科 教授 深井 康子

大学コンソーシアム富山の単位互換科目として、令和元年度より「とやまの食文化」を開講しました。講義の目的は、先人の知恵により育まれた「とやまの食文化」について、富山の地形と豊かな自然環境を再発見しながら地域の郷土料理を味わい、食体験を通じて、理解を深めてもらうことです。

授業は、令和元年9月9日（月）、11日（水）、12日（木）の3日間、集中講義形式（1単位）で大学コンソーシアム富山駅前キャンパス CiC ビルをメイン会場に、富山短期大学調理実習室、梅かまミュージアム U-meい 館で行いました。受講生は、富山大学3名、富山県立大学8名、富山高等専門学校3名、富山福祉短期大学2名、富山短期大学19名で、定員を超える35名が熱心に受講してくれました。県内の学生が「とやまの食」を通じた体験により、互いに交流を深めることができ、有益な授業になりました。

授業内容は、1回：とやまの食文化総論（深井康子教授）、2回：とやまの魚、そのおいしさの秘密と健康性（竹内弘幸教授）、3・4回：かまぼこ作りの体験・かまぼこの歴史と展示見学（高野隆司氏、(株)梅かま顧問）、5・6回：米・魚・野菜・野草の調理実習～みよ

うがずし、白エビのかき揚げ、すりみ汁、かぶらごき、やきつけ～（深井康子教授・中根一恵講師）、7回：砺波地域の食文化と伝承料理（境嘉代子氏、食の匠・農家レストラン大門）、8回：ワークショップ「次世代に伝えたい とやまの食文化」です。最終回は、「今後、とやま（地域）の食文化をどのように伝え、発信していけばよいか」についてグループでディスカッションし、発表することで、「とやまの食文化」への理解度がさらに深まり、「富山に住んで良かった」という嬉しい感想が寄せられました。



「鯛のかまぼこ」

## 令和元年度部門別学生・生徒・園児数等

令和元年5月1日現在(単位:人)

部門	学部・学科名等	収容定員(A)	1年	2年	3年	4年	合計(B)	定員充足率(B/A)	備考
大学	現代社会学部	490	147	129	107	100	483	98.6%	
	子ども育成学部	350	99	92	116	92	399	114.0%	
	小計	840	246	221	223	192	882	105.0%	
短大	食物栄養学科	160	89	76			165	103.1%	
	幼児教育学科	160	93	86			179	111.9%	
	経営情報学科	220	133	122			255	115.9%	
	健康福祉学科	100	43	29			72	72.0%	
	専攻科食物栄養専攻	30	11	15			26	86.7%	
	小計	670	369	328			697	104.0%	
高校	全日制普通科	760	270	311	247		828	108.9%	
幼稚園		110	3歳児 28	4歳児 27	5歳児 28		83	75.5%	
	総計	2,380					2,490	104.6%	

# 平成30年度 決算及び財務の状況

## 平成30年度決算及び財務の状況

平成30年度の事業報告及び決算は、去る5月31日開催の理事会・評議員会において承認されました。各校の主な決算の概要及び学園全体の決算・財務状況は以下のとおりです。

### 大学

大学は、現代社会学部・子ども育成学部の両学部で入学定員を確保し、大学全体では2年連続で収容定員を確保できました。しかし、補助要件の変更等により補助金額が大幅に減少し、その結果、当年度収支差額で46,486千円(H29 105,562千円)の黒字にとどまりました。補助金は、国等の方針により度々要件が変更になることから、安定的に確保することが難しくなってきました。従って、収入源として確実な学生数を安定的に確保することに努める必要があります。

### 短大

短大は、前年度に続き2年連続の入学定員・収容定員割れとなり、非常に厳しい結果となりました。これまで短大は、学園の財務を支えてきましたが、全国的な四年制大学志向の高まりなどを考慮すると、今後は厳しさを増していくことが予想されます。当年度収支差額でも、△11,868千円(H29 △12,621千円)と赤字が続く結果となり、先行き不透明な状況になったと言えます。

### 高校

高校は、県内外からも評価されている最先端のICT教育や国際化の推進などの他、課外活動においても、全国大会への出場など顕著な実績をあげることから、15歳人口の減少が続いているにもかかわらず、生徒数確保や収支状況において、好調を維持しています。当年度収支差額では、71,379千円(H29 56,060千円)となり、前年度を上回る黒字となっています。

### 幼稚園

幼稚園は、園舎改築工事に伴う安全配慮による入園者抑制の影響もあり、園児数は前年度よりさらに減少することとなりました。平成31年2月に新園舎が竣工し、平成31年度から、幼稚園型認定こども園として新しいスタートを切ったことから、今後は、安定的に園児数を確保することが必要です。当年度収支差額は、前年度からの園舎改築にかかる大規模投資の影響が大きく、△106,140千円(H29 △156,035千円)と大幅な赤字となりました。

この結果、平成31年度への翌年度繰越収支差額(累積赤字)は、平成29年度の前年度繰越収支差額△2,640百万円に、平成30年度の当年度収支差額△29百万円を加え、△2,669百万円となりました。

**資金収支計算書**(当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入支出の内容並びに当該会計年度における支払資金(現金預金)の収入及び支出の顛末を明らかにするもの)において、今年度は内部資金の運用にかかる収入支出が増えています。これは、従来の学園充実引当資産を全て取崩し、新たに資金の用途を特定した「学園施設等充実引当特定資産」及び「学園経営安定資金引当特定資産」を設けたことによるものです。

**貸借対照表**(当該会計年度末の財政状態(運用形態と調達源泉)を明らかにするもの)において、学園の財務状況を見ると、平成30年度末現在の資産総額は13,313百万円となりました。一方、負債総額は1,291百万円、純資産の内、基本金は14,691百万円となりました。これらの結果、翌年度繰越収支差額は△2,669百万円となり、約29百万円収支が悪化しました。

平成30年度決算において、事業活動収支決算で、2年連続の赤字決算となりました。今後、少子高齢化が進行し、私学を取り巻く環境はますます厳しさを増すことが予想されます。

本学園は、どのような環境下にあっても、北陸を代表する私学総合学園として、社会や地域のニーズに応えるという使命を果たす責任があります。この責任を果たすためには、財政の健全化・安定化を維持し、教育の発展に努めることが必要です。

また、本学園には短大校舎Ⅱ期工事、高校第2体育館建設、大学東黒牧キャンパス老朽化対策など、対応を急がなければならない事業が数多くあります。

これらの事業を実施するためには、志願者・学生生徒を安定的に、確実に確保し、不要不急の事業の見直しや経費削減にも努めなければなりません。

(学園の詳細な財務状況等は、学園のWebサイト【<http://www.tti.ac.jp/finance.html>】に掲載してありますので、そちらもご覧ください。)

## 事業活動収支計算書

平成30年4月1日から  
平成31年3月31日まで

(単位:千円)

## 学園全体の決算及び財務状況

**事業活動収支計算書**(当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容と基本金組入後の均衡の状態を明らかにするもの)において、事業活動収入合計が2,871百万円(対前年度比13百万円増・0.5%増)、事業活動支出合計が2,725百万円(同39百万円増・1.5%増)、基本金組入額合計が175百万円(同41百万円減・19.0%減)となりました。

収入増の主な要因は、①幼稚園園舎改築工事にかかる補助金の増、②高校生生徒数の増などによるものです。

支出増の主な要因は、①高校教務システム委託費の増、②幼稚園園舎改築工事費の増などによるものです。

## 資金収支計算書

平成30年4月1日から  
平成31年3月31日まで

(単位:千円)

科 目	30年度予算	30年度決算①	前年度決算②	差異①-②
<b>収入の部</b>				
学生生徒等納付金収入	1,949,788	1,982,473	1,938,399	44,074
手数料収入	37,927	39,461	37,131	2,330
寄付金収入	1,905	2,230	2,900	△670
補助金収入	743,857	693,373	708,011	△14,638
資産売却収入	1	200	0	200
付随事業・収益事業収入	36,215	30,809	30,837	△28
受取利息・配当金収入	10,220	3,713	5,360	△1,647
雑収入	111,135	114,693	131,731	△17,038
借入金等収入	0	0	0	0
前受金収入	443,062	494,167	460,767	33,400
その他の収入	3,605,387	3,457,222	381,735	3,075,487
資金収入調整勘定	△635,277	△687,756	△663,728	△24,028
前年度繰越支払資金	857,356	857,355	815,118	42,237
収入の部合計	7,061,576	6,987,940	3,848,261	3,139,679
<b>支出の部</b>				
人件費支出	1,708,907	1,682,054	1,704,267	△22,213
教育研究経費支出	632,173	571,046	523,593	47,453
管理経費支出	128,753	118,024	122,351	△4,327
借入金等利息支出	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0
施設関係支出	352,776	343,659	235,718	107,941
設備関係支出	40,364	37,299	35,271	2,028
資産運用支出	3,326,110	3,334,978	406,117	2,928,861
その他の支出	177,590	179,485	139,678	39,807
(予備費)	(0)	(0)	(0)	(0)
資金支出調整勘定	△139,700	△153,288	△176,089	22,801
翌年度繰越支払資金	819,103	874,683	857,355	17,328
支出の部合計	7,061,576	6,987,940	3,848,261	3,139,679

科 目	30年度予算	30年度決算①	前年度決算②	差異①-②
<b>教育活動収入の部</b>				
学生生徒等納付金	1,949,788	1,982,473	1,938,399	44,074
手数料	37,927	39,461	37,131	2,330
寄付金	6,906	2,444	3,514	△1,070
経常費等補助金	632,503	579,727	629,831	△50,104
付随事業収入	36,215	30,809	30,837	△28
雑収入	111,135	116,619	132,544	△15,925
教育活動収入合計(1)	2,774,474	2,751,533	2,772,256	△20,723
<b>事業活動支出の部</b>				
人件費	1,714,607	1,683,943	1,691,581	△7,638
教育研究経費	956,173	892,675	843,652	49,023
管理経費	131,552	120,655	124,647	△3,992
徴収不能額等	1	0	355	△355
教育活動支出合計(2)	2,802,233	2,697,273	2,660,235	37,038
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	△27,759	54,260	112,021	△57,761
<b>収入の部の部外</b>				
受取利息・配当金	10,220	3,713	5,360	△1,647
その他の教育活動外収入	1	0	0	0
教育活動外収入合計(4)	10,221	3,713	5,360	△1,647
<b>支出の部の部外</b>				
借入金等利息	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	10,221	3,713	5,360	△1,647
経常収支差額(7)=(3)+(6)	△17,538	57,973	117,381	△59,408
<b>収入の部の部外</b>				
資産売却差額	1	199	0	199
その他の特別収入	111,358	116,105	80,511	35,594
特別収入合計(8)	111,359	116,304	80,511	35,793
<b>支出の部の部外</b>				
資産処分差額	30,000	28,057	25,968	2,089
その他の特別損失	1	0	0	0
特別支出合計(9)	30,001	28,057	25,968	2,089
特別収支差額(10)=(8)-(9)	81,358	88,247	54,543	33,704
【予備費】(11)	(0)	(0)	(0)	(0)
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	48,320	146,220	171,924	△25,704
基本金組入額合計(13)	△170,115	△174,615	△215,685	41,070
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	△121,795	△28,395	△43,761	15,366
前年度繰越収支差額(15)	△2,640,483	△2,640,482	△2,596,721	△43,761
基本金取崩額(16)	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	△2,762,278	△2,668,877	△2,640,482	△28,395
(参考)				
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	2,896,054	2,871,550	2,858,127	13,423
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	2,847,734	2,725,330	2,686,203	39,127

## 平成30年度学校法人富山国際学園財務分析について

平成30年度決算の財務分析によると、法人全体及び短大・幼稚園を除く各校では、経常費ベースでの収益性は前年度に引き続き、おおむね良好である。また、法人全体の安全性は今後さらに高める必要があるが、短期的な支払い能力（返済力）は特に問題なしと判断される。

**事業活動収支差額比率**（損益ベースでの収支状況）は学園全体では、0%以上であるが、短大・幼稚園がマイナスとなっていることから、定員割れの状況を打開することが必要である。**人件費比率**（人件費の収入に対するバランス）は大学・高校以外では60%を超えており、対策が必要である。また、**教育研究経費比率**（教育研究経費の経常収入に占める割合）は目安とされる30%を高校は若干下回っており、今後、収支の均衡を失しない限り、教育活動への更なる投資をめざす必要がある。

**積立率**（安定的に経営を行う上での保有資産の状況）は69.5%と100%以下であることから、長期的に必要な資金を確保できていないため、今後運用資産を増やし、安全性を高める必要がある。

**流動比率**（短期的な支払い能力）は159.6%と返済力には問題はない。今年度までは、幼稚園園舎改築工事に資金投資してきたが、結果として、学園の他の資金需要が見込まれる短大校舎改築Ⅱ期工事、高校第2体育館建設工事、大学東黒牧キャンパス老朽化対策などについては、現段階では、計画を立てることも難しいことから、今後、更に収益性を高め、運用資産を増加させて安全性を高めていかなければならない。

※幼稚園の数値は、特殊要因である園舎改築にかかる富山市からの補助金111,355千円及び園舎改築にかかる費用46,287千円を除外している。

### 【参考】財務指標の意味

（日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターより）

#### ①事業活動収支差額比率【基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入】

事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合で、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。

#### ②人件費比率【人件費/経常収入】

人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化につながる要因ともなる。

#### ③教育研究経費比率【教育研究経費/経常収入】

教育研究経費の経常収入に占める割合を示す。教育研究経費は、教育活動に維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましい。

#### ④積立率【運用資産/要積立額】

**運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券**  
**要積立額＝減価償却累計額＋退職給付引当金＋2号基本金＋3号基本金**  
 学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。長期的に必要な資金需要（保有すべき要積立額）に対し、実際にどの程度運用資産として保持しているかを把握する指標となる。

#### ⑤流動比率【流動資産/流動負債】

流動負債に対する流動資産の割合であり、1年以内に返済義務のある借入金等の流動負債に対して、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する重要な指標である。一般的には200%以上であれば優良とみなされる。

### 【主な財務指標】

（単位：千円）

	①	②	③	④	⑤			
法人全体	2,871,550	2,725,330	146,220	5.1%	61.1%	32.4%	69.5%	159.6%
大学	1,068,960	1,017,356	51,604	4.8%	56.0%	34.6%		
短大	913,459	920,070	-6,611	-0.7%	64.3%	30.9%		
高校	725,449	639,237	86,212	11.9%	59.3%	27.2%		
幼稚園	47,211	69,017	-21,806	-46.2%	97.1%	96.3%		

### 活動区分資金収支計算書

平成30年4月1日から  
平成31年3月31日まで

（単位：千円）

### 貸借対照表

平成31年3月31日

（単位：千円）

科目	本年度末	前年度末	増減
<b>資産の部</b>			
固定資産	12,185,464	12,073,556	111,908
有形固定資産	8,254,787	8,223,773	31,014
特定資産	3,929,352	609,369	3,319,983
その他の固定資産	1,325	3,240,414	△3,239,089
流動資産	1,127,485	1,082,519	44,966
資産の部合計	13,312,949	13,156,075	156,874
<b>負債の部</b>			
固定負債	584,812	584,834	△22
流動負債	706,457	695,782	10,675
負債の部合計	1,291,269	1,280,616	10,653
<b>純資産の部</b>			
基本金	14,690,556	14,515,941	174,615
第1号基本金	14,496,016	14,321,406	174,610
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	13,540	13,535	5
第4号基本金	181,000	181,000	0
繰越収支差額	△2,668,876	△2,640,482	△28,394
純資産の部合計	12,021,680	11,875,459	146,221
負債及び純資産の部合計	13,312,949	13,156,075	156,874

科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,982,473	小計（教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額）(1)=(5)+(6)	97,905
手数料収入	39,461	借入金等収入	0
特別寄付金収入	2,230	退職給付引当特定資産取崩収入	11,523
一般寄付金収入	0	学園充実引当資産取崩収入	3,239,089
経常費等補助金収入	579,727	修学旅行費預り金受入収入	3,472
付随事業収入	30,809	小計	3,254,084
雑収入	114,693	受取利息・配当金収入	3,713
教育活動資金収入計(1)	2,749,393	過年度修正収入	0
人件費支出	1,682,054	その他の活動資金収入計(2)	3,257,797
教育研究経費支出	571,046	借入金等返済支出	0
管理経費支出	118,024	第3号基本金引当特定資産繰入支出	5
教育活動資金支出計(2)	2,371,124	退職給付引当特定資産繰入支出	11,501
差引(3)=(1)-(2)	378,269	学園施設等充実引当特定資産繰入支出	1,500,000
調整勘定等(4)	98,102	学園経営安定資金引当特定資産繰入支出	1,820,000
教育活動資金収支差額(5)=(3)+(4)	476,371	修学旅行費預り資産繰入収入	3,472
施設整備等活動資金収入	0	預り金支払支出	3,996
施設整備補助金収入	113,647	小計	3,338,374
施設整備売却収入	200	借入金等利息支出	0
施設整備等活動資金収入計(6)	113,847	その他の活動資金支出計(3)	3,338,374
施設関係支出	343,659	差引(4)=(2)-(3)	△80,577
設備関係支出	37,299	調整勘定等(5)	0
施設整備等活動資金支出計(7)	380,958	その他の活動資金収支差額(6)=(4)+(5)	△80,577
差引(8)=(6)-(7)	△267,111	支払資金の増減額（小計+その他の活動資金収支差額）(7)+(8)	17,328
調整勘定等(9)	△111,355	前年度繰越支払資金	857,355
施設整備等活動資金収支差額(10)=(8)+(9)	△378,466	翌年度繰越支払資金	874,683

### 部門別事業活動収支計算書

（単位：千円）

活動区分	科目	部門					活動区分	科目	部門						
		総額	大学	短大	高校	幼稚園			法人	総額	大学	短大	高校	幼稚園	法人
教育活動収支	学生生徒等納付金	1,982,473	864,049	672,050	425,606	20,768	0	経常収支差額	57,973	52,230	△4,167	82,640	△44,483	△28,247	
	手数料	39,461	16,066	12,894	10,467	34	0	特別収支	資産売却差額	199	0	0	0	199	
	寄付金	2,444	1,900	330	0	214	0		その他の特別収入	116,105	160	618	3,693	111,634	
	経常費等補助金	579,727	139,063	136,633	283,550	20,481	0		特別収入合計(6)	116,304	160	618	3,693	111,833	
	付随事業収入	30,809	14,928	10,432	0	5,233	216		資産処分差額	28,057	786	3,062	121	24,088	
	雑収入	116,619	32,578	80,334	2,133	3	1,571		0	特別支出合計(9)	28,057	786	3,062	121	24,088
	教育活動収入合計(1)	2,751,533	1,068,584	912,673	721,756	46,733	1,787		特別収支差額(10)=(8)-(9)	88,247	△626	△2,444	3,572	87,745	
	人件費	1,683,943	598,036	567,194	427,808	45,397	25,508		基本金組入前当年度収支差額(11)=(7)+(10)	146,220	51,604	△6,611	86,212	43,262	△28,247
	教育研究経費	892,675	369,306	281,998	196,376	44,995	0		基本金組入額合計(12)	△174,615	△5,118	△5,257	△14,833	△149,402	△5
	管理経費	120,655	49,228	47,816	14,932	824	7,855		当年度収支差額(13)=(11)+(12)	△28,395	46,486	△11,868	71,379	△106,140	△28,252
徴収不能額等	0	0	0	0	0	0	前年度繰越収支差額(14)		△2,640,482	0	0	0	0	0	
教育活動支出合計(2)	2,697,273	1,016,570	917,008	639,116	91,216	33,363	基本金取崩額(15)	0	0	0	0	0	0		
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	54,260	52,014	△4,335	82,640	△44,483	△31,576	翌年度繰越収支差額(16)=(13)+(14)+(15)	△2,668,877	0	0	0	0	0		
教育活動外収支	受取利息・配当金	3,713	216	168	0	0	3,329	(参考)							
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0	事業活動収入合計(1)+(4)+(6)	2,871,550	1,068,960	913,459	725,449	158,566	5,116	
	教育活動外収入合計(4)	3,713	216	168	0	0	3,329	事業活動支出合計(2)+(5)+(9)	2,725,330	1,017,356	920,070	639,237	115,304	33,363	
	借入金等利息	0	0	0	0	0	0	事業活動収支合計-事業活動支出合計	146,220	51,604	△6,611	86,212	43,262	△28,247	
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0	基本金組入前当年度収支差額	146,220	51,604	△6,611	86,212	43,262	△28,247	

## 現代社会学部「ふるさと龍宮まつり」を企画・運営、 子ども育成学部「こども食堂」を開催



現代社会学部の学生が、令和元年7月13日（土）・14日（日）に滑川市で開催された「ふるさと龍宮まつり」において、地方創生推進事業（COC+）として、滑川商工会議所青年部と連携し、イベントの企画・運営を行いました。2年目となった本年は、ビジョンカーを活用した広報活動、SNSを利用したPR、国際大学プロデュースによるステージイベントの企画、テントブースでの出店など、新たな取り組みに挑戦しました。

子ども育成学部では、本年4月より、第4土曜日に県内初の大学生運営によるこども食堂「ちょっこ おいでま こども食堂キャンパス」を呉羽キャンパスにオープンさせ、11月で8回目を迎えました。毎回、子どもや保護者あわせて100名ほどが利用しています。恒例のカレー、季節に応じたレクリエーション、学習支援、綿菓子とポップコーンづくり等、学生たちの創造力豊かな実践と自主性に感心させられます。これからも、このような活動が増えていく環境づくりを支援していきたいと思えます。

## 第66回日本栄養改善学会学術総会が盛大に開催

令和元年9月5日（木）～7日（土）の3日間、第66回日本栄養改善学会学術総会が富山県民会館と富山国際会議場の2会場にて開催され、全国から栄養士や栄養士養成施設の教員など約2,500名が集まりました。本学に事務局を置き、総会会長を食物栄養学科長の竹内弘幸教授が務め、2年間準備を進めてきました。

富山国際大学の高木利久学長が特別講演、専攻科長の田淵英一教授が市民公開講座を、専攻科2年生15名全員が学会発表を行いました。また食物栄養学科の学生たちは、35℃という酷暑のなか、県外から来場した参加者の道案内など、学会運営に協力しました。丁寧に対応する学生たちの姿に、参加者の方々からお褒めの言葉をいただきました。本総会をとおして、本学の研究および教育における質の高さが、全国的に認められる良い機会となりました。



## 英語力を生かし各種大会で活躍

この秋も、本校生は日頃培った英語力を存分に生かし、弁論、プレゼンテーション、ディベートなどの各種大会で優秀な成績をおさめています。

10月に群馬県で行われた第69回高崎市長杯英語弁論大会で、本多蒼来さん（12H）が優勝、山本紋華さん（21H）が準優勝に輝きました。教育をテーマに発表した本多さんは、「初めてのコンテストでとても緊張したが、自分の伝えたいことをジャッジやオーディエンスにしっかりと伝えることができた。」と語ってくれました。

他にも、獨協大学で行われた第7回全国英語プレゼンテーションコンテストの本選で2位・外国語学部長賞を、青山学院大学で行われたチャール杯争奪全国高校生英語弁論大会の東日本予選で1位と5位を受賞しています。

県内の大会においても、第21回県高校生英語プレゼンテーションコンテストと第9回県高校生英語ディベート大会の両方で1位を受賞し、全国大会での活躍が期待されています。

大会に向けて思考力を深め、表現力を磨き上げることに全力を尽くし、本番では、のびのびと躍動する生徒たちの姿に、いつも驚かされています。

## みんながたのしいうんどうかい

令和元年9月28日（土）、富山短期大学体育館でみどり野幼稚園の運動会を行いました。今年のテーマは年長児が話し合って決めた「みんながたのしいうんどうかい」です。運動会が初めての年少児は、たくさんのお客さんに緊張しながらも、「見て見て！」と観客席に手を振り、笑顔でかけっこする姿がありました。絵本から筋肉に興味を持った年中児は、運動会を「うんどうきんにくパーティー」と名付けて競技内容を考え、当日も筋肉を意識しながら張り切っていました。幼稚園最後の運動会となる年長児は、跳び箱や板登りなどチャレンジいっぱいのサーキットや、保護者も交えてのクラス対抗綱引き、ドラマいっぱいのリレーなど、一つ一つの競技を真剣に、そして楽しく、仲間と協力しながら取り組みました。子どもたちも参加した家族の方々も、「みんながたのしいうんどうかい」を実感した運動会でした。

